

## 札幌の商店街の草分け的存在

# 狸小路

開拓時代から現在まで、札幌の歴史とともに歩んできた庶民の商店街、狸小路の歴史について紹介します。

明治六年（一八七三年）ごろ、今の狸小路二丁目に「東座」という芝居小屋ができたことをきっかけに、この一帯に次々と一杯酒の店ができていきました。それが狸小路の始まりです。

このころの狸小路は、歓楽街といったところでしたが、その後、勧工場かんこうばという今のデパートの前身ができ、徐々に商店街として発展していきました。

明治二十五年（一八九二年）と四十年（一九〇七年）には、狸小路を火元とする札幌大火が起き



再建されたすずらん灯  
(札幌市教育委員会文化資料室所蔵)

ました。狸小路は、その後も幾度となく火災に見舞われましたが、そのたびにたくましく生まれ変わりました。

昭和二年に、狸小路の新しい顔が誕生しました。それが「すずらん灯」です。かわいらしいすずらん灯は大評判となりました。十一年には、すずらん灯の上にネオンも取り付けられ、札幌の夜を華やかに彩りました。戦時中には一時姿を消しましたが、二十四年に再建され、明るい光の花を再び咲かせたのです。

三十三年にはすずらん灯にかわり、三丁目にアーケードが完成。その後、他の丁目にも広まり、全天候型の商店街として隆盛をきわめました。五十七年には今の開閉式のアーケードに変わりました。

狸小路はこれからも少しずつ変わっていくでしょうが、いつまでも愛されつづける「庶民の街」であってほしいものです。

(平成十年八月号・第四十八回)



大正末期の2丁目から西方を望む  
(札幌市教育委員会文化資料室所蔵)